

原子炉廃止措置研究開発センター

○「ふげん」プラント状況



【ポンプ基礎への膨張剤注入】（撮影日：平成25年3月6日）

タービン補機冷却海水系の解体撤去作業では、静的破碎工法*を用いてポンプのコンクリート基礎（非管理区域）の解体撤去作業を行いました。「ふげん」の廃止措置では、同じコンクリートの解体にもいろいろな工法を試し、今後の建物や構造物の解体に備えて経験やデータを蓄積することも重要と考えています。



（内部から膨張し、ひびわれをおこしている）

（膨張材充填のあと）

【破碎剤による静的破碎状況】

*：静的破碎工法（せいてきはいさこうほう）は、あらかじめ開いている穴の中に膨張剤を充填し、時間経過により発生する大きな膨張圧力を利用してコンクリートや岩石を内部から破碎する工法で、無騒音・無振動、破碎時の飛石や粉塵の発生もなく、古くから無公害工法として実績のある技術です。

国際原子力情報・研修センター

○エネルギー研究開発拠点化計画の一環として、エネルギーや環境に関する学校教育への支援を行っています



【敦賀市立栗野南小学校5年生 出前授業
「電流がうみ出す力」強力電磁石の実験】
（撮影日：平成25年3月4日）



【福井市栗小学校6年生 出前授業
「エネルギー・環境」『電気はどうやって作るの？』実験】
（撮影日：平成25年3月5日）

さいくろーミーティング（地域訪問活動）実績（平成13年10月～）件数：1,526件 人数：36,264人
（平成25年4月26日現在）

編集後記

皆さんは「ルービックキューブ」で遊んだことがありますか？1面9個ある四角の色を6面全て揃えるあのゲームです。私は幼い頃、この「ルービックキューブ」をうまく揃えることが出来ずに短気を起し、キューブをバラバラにして無理やり色合わせをした覚えがあります。最近、これとよく似たパズルに挑戦する機会がありました。縦の列が合えば、横の列が合えば、横の列が合えば、横の列が合えば「ルービックキューブ」のようです。それと同時に、ひとつのつじつまを合わせると、他のつじつまが合わなくなってしまうような自分の仕事や社会情勢にも似ているように思いました。何事も先（将来）のことを見据えて、一手二手先を読んでいくことが大切です。社会のルールに従いながらも、時には自分の直感を信じ、短気を起こさずに、1つずつ解決していきたいと感じています。まずは、解き始めたこのパズルを最後まで粘って解いてみます（笑）。

● 本資料に関するお問合せ先 ●

日本原子力研究開発機構 敦賀本部 業務統括部広報課

Tel：0770-21-5023 Fax：0770-25-5782 ホームページアドレス <http://www.jaea.go.jp>
発行：平成25年4月26日



原子力機構 敦賀本部からのお知らせ

巻頭挨拶

4月1日付で高速増殖炉研究開発センター（もんじゅ）所長を拝命した敦賀本部長代理・理事の廣井博です。経営がより現場に寄り添い、強い組織力を発揮する体制を作っていく決意ですので、宜しく願い申し上げます。新体制では、発電所保全経験者の新たな採用等によりプラント保全部の強化を図りました。また、運用改善のための行動計画に則り、保守管理上の不備の再発防止に向け、着実に取り組んでいく所存です。

さらに、「もんじゅ」の安全性向上に係る研究として、従来のFBRプラント工学センターの研究に加え、安全設計解析・評価及び安全技術の整備・適用の検討に取り組み、その一環として新規基準への適切な対応を行うことができる「FBR安全技術センター」を敦賀本部に設置し、機能増強を図りました。



【FBR安全技術センター除幕式】
（撮影日：平成25年4月2日）

今後とも、「今日の100%は明日の100%にあらず！」の精神で、常に問い続け、継続的な改善に努めてまいりますので、ご理解とご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。



敦賀本部長代理・理事
高速増殖炉研究開発センター（もんじゅ）所長
廣井 博

高速増殖炉研究開発センター

○「もんじゅ」プラント作業状況



【共通保修設備ポンプ単体作動確認】
（撮影日：平成25年3月7日）

共通保修設備が健全であることを確認する目的で、設置されている全てのポンプの動作確認を行い、不具合がないことを確認しています。



【燃料池水面清掃作業】
（撮影日：平成25年3月18日）

「もんじゅ」の使用済燃料等を貯蔵する燃料池では、水面の清浄度を保つため清掃を行っています。

“原子炉廃止措置研究開発センター「ふげん」のクリアランス制度運用に向けた取り組み(その2)”

原子炉廃止措置研究開発センター「ふげん」のクリアランス制度導入に向けての準備状況をご紹介します。

「ふげん」のクリアランス対象物は、法に定める所定の手続きを行い、国の確認を経て、可能な限り再利用または産業廃棄物として処理・処分することとしています。「ふげん」の廃止措置に伴って発生する解体撤去物等のうちクリアランス対象となるものを左下の図に示します。当面は、解体撤去物のうちタービン設備の金属を対象として、クリアランス制度に基づく放射能レベルの区分け準備を進めています。

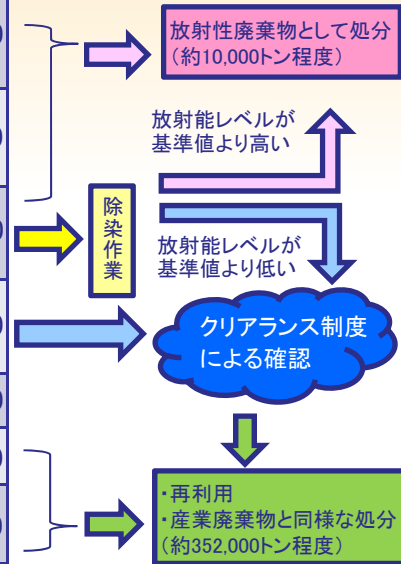
「ふげん」から発生する解体撤去物等

放 射 能 レ ベ ル 区 分			発生量 (単位:トン)
管 理 区 域	低 レ ベル 放射 性 廃 棄 物	放射能レベルの比較的高いもの (レベル1)例: 炉心等	約 500
		放射能レベルの比較的低いもの (レベル2)例: 原子炉からの放射線を遮へいする 遮へい体部分の内側	約 4,400
		放射能レベルの極めて低いもの (レベル3)例: 燃料プール等	約 45,500
	放射性物質として扱う必要がないもの 例: タービンを解体して出てきた鉄板、配管等		約 600
合 計			約 50,800
非 管 理 区 域	放射性廃棄物でない廃棄物		約141,000
	汚染のない地下の建屋、構造物、事務所、倉庫等(＊)		約170,000
総計(「ふげん」から発生する解体撤去物)			約361,800

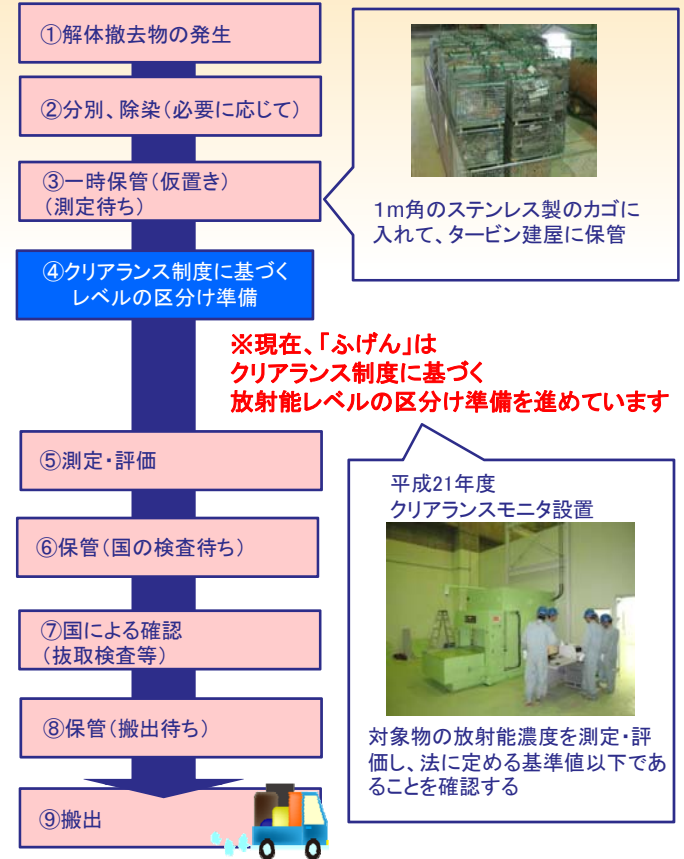
(*) 廃止措置計画書記載対象外

参考: 1トン≒普通乗用車1台分

- 推定発生量は、10トン単位で切り上げ、合計値については、100トン単位で切り上げた値。
(端数処理のため合計値が一致しない箇所もあります)
- 放射能レベル区分毎の物量は、除染を考慮していないレベル区分で集計した値。
(今後の除染等により各レベル程度や数量は変わることがあります)



クリアランス対象物の搬出までの流れ



“平成25年度新入職員入所式”

原子力機構の平成25年の新入職員88名のうち、6名が敦賀地区配属となり、4月22日にアトムホールにて入所式を行いました。入所式では、敦賀本部長挨拶の後、新入職員それぞれが決意を胸に、一歩ずつ歩いていくことを誓いました。

原子力機構敦賀本部は、新しい仲間を迎え、より一層業務に励んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



●Q&A●

Q)クリアランス制度とは？

A)原子力発電所の解体などで発生する廃材等のうち、放射能濃度が極めて低いものは、法律に定められた手続き・確認を経ることにより、再利用、または普通の産業廃棄物として処分できるとする制度です。

Q)「放射性廃棄物として扱う必要がないもの」と「放射性廃棄物でない廃棄物」の違いは？

A)「放射性廃棄物でない廃棄物」は、使用履歴・設置状況等から放射性物質による汚染がないことが明白なものを指します。

すぐれた技術 確かな安全 世界に示す 新生「もんじゅ」